

海外だより

アメリカ・モンタナ大学におけるバスケットボール、 コンピティション・キャンプについて

九州東海大学 米 沢 久

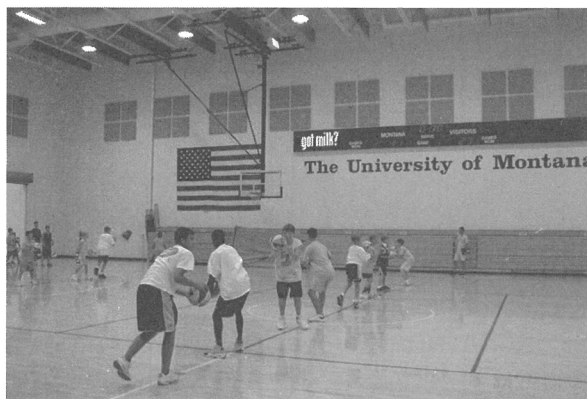
1. はじめに

モンタナ大学は、アメリカ合衆国北西部に位置するモンタナ州のミズーラ(Missoula)市にある州立大学で、海外からの留学生の多い大学である。

モンタナ大学主催の男子バスケットボール・サマーキャンプは、2001年度は①Father/Son Camp(June 16 & 17, Entering Grade 3-8), ②Development Camp (June19-21, Entering Grade 5-12), ③Competition Camp(June 29-July 2, Entering Grade 5-12), ④Day Camp(July 23-27, Entering Grade 1-10)の4種類が行われ、キャンプにもよるが小学生から高校生まで参加者は比較的多い。地理的にはカナダに近いため、カナディアンの参加者やコーチも多い。ちなみに参加料は大学宿舎に宿泊した場合、食事付きでFather/Son Camp 175\$, Development Camp 210\$, Competition Camp 260\$, Day Camp 75\$である。安価なのは州からの補助のお陰でもある。勿論、補助の目的が、州政府の教育目標の一つである「青少年の健全な育成」にあることはいうまでもない。

2000年度のCompetition Campは6月30日(金)～7月3日(月)の3泊4日で行われ、参加選手は225名であった。ここでのレポートは、主として2000年度のCompetition Campの様相である。

2. コンピティション・キャンプ・スタッフ (Competition Camp Staff)47名 2000年度のコンピティション・キャンプ・スタッフ



は下記に示すように①モンタナ大学・コーチング・スタッフ4名, ②フルタイム・コーチ13名, ③パートタイム・コーチ9名, ④学生コーチ12名, ⑤委員3名, ⑥ゴルフ・プロ4名, ⑦トレーナー2名の総勢47名であった。役職・氏名等の内訳を次に記載する。

- 2-1. モンタナ大学・コーチング・スタッフ(Grizzly - Basketball Staff) 4名
 Don HOLST; 総監督(Head Coach)
 Todd SHMAUTZ; キャンプ指揮者(Camp Director)
 Jim SAMPSON
 Colleen MARKS; 事務官(Secretary)
- 2-2. フルタイム・コーチ(Full Time Coaches)13名
 Bill GAUL, Tom GROAT, Paul SIR, Phil ALLEN,
 David DORWARD, Jim STERGAR,
 Drew MACGREGOR, Marc MAY, Craig BAUM-
 GARTNER, Jim EPPERLY, Clark SHAFFER,
 Nate COVILL, Dave MAYNARD
- 2-3. パートタイム・コーチ(Part Time Coaches) 9名
 Glen WILLIAMS, Rollie SULIVAN, Bruce ROBERT-
 SON, Tom MORRISON,
 Eric HAYS, Jardeth NELSON, Richard BAZOOY-
 AN, Tim MCKEON, Hiroyuki YOKOYAMA
- 2-4. 学生コーチ(Player in Dorm.)12名
 Dominique DAVIS, Brent CUMMINGS, Ryan SLID-
 ER, Jared BUCKMASTER, Sam RIDDLE,
 Jake STUART, Travis GREENWALT, Kasey
 WILLIAMS, Matt WILLIAMS, Marc BOUMA,
 J. R. CASILLAS, Ben BROOKE
- 2-5. 委員(Commissioner) 3名
 Owen BURCH, Rick SCHATZ, Pryor ORSER
- 2-6. ゴルフ・プロ(Golf Pros.) 4名
 Dave YOUNGS, Shawn CHEIZINOFF, John
 DEDRIK, Mike S. Lynagh
- 2-7. トレーナー(Trainers) 2名
 Jennifer FISCHER, Wesley WOOD

3. キャンプにおける各役員の責任・義務 (Responsibilities)

大学寮内における選手管理, 用具・施設等管理, その他各種雑務等は綿密に計画され内容も多岐に亘っている。担当者並びに業務の概略は次の通りである。

- 3-1. Rick SCHATZ; キャンディーマン {Candyman}
(Tシャツなどの物品販売, 配布, その他, 各種雑務)
- 3-2. Todd SHMAUTZ; 大学寮内における選手指導
(Dorm. Guru)
- 3-3. Dominique DAVIS & Matt WILLIAMS; 大学寮内における主将(Dorm Captains)
- 3-4. Pryor ORSER; 大学寮チェックアウト係(Dorm Checkout)
- 3-5. Jared BUCKMASTER; ゲーム用ボール係
(Leather Ball Boy)
- 3-6. Pryor ORSER; キャンプ売店, およびチェックイン係(Camp Store-Check In)
- 3-7. Ryan SLIDER; ストップウォッチ係(Stop Watch Guard)
- 3-8. Owen BURCH; キャンプ売店-夕方(Camp Store-Evenings)
- 3-9. Jim SAMPSON; 施設・設備主任
- 3-10. Pryor ORSER & Todd SHMAUTZ; ゲーム常任委員(Standings of All leagues)

4. チーム編成(Evaluation)

4-1. チーム編成

チーム編成にあたっては身長, ポジション, スキル等のバランスを考慮し, 各チームが均等になるよう考慮される。

4-2. チーム編成, 選手管理等の手順

- ①. 全選手を身長順に整列させる。
- ②. チームのメンバーを数え, 均等に割り当てる。
- ③. 各グループで8分, 4分のゲームを行う。
- ④. ゲームに出場していない選手は, 時計と逆回りのローテイト方式により交代させる。
- ⑤. 出場選手は各ゲーム毎に入れ替わる。
- ⑥. 選手を座らせチーム名簿を作成する。(アルファベットは正しく記入する。これは表彰時等に必要)
- ⑦. 練習およびゲームの場所等を選手に知らせる。

5. グループ担当

次の通り学年別にNCAA POOL A, NCAA POOL B,

NBA, Europeanの4グループに分け, 各主任コーチを割り当てる。

- ①. 主任 Pryor ORSER & Jim SAMPSON; NCAA (Grade 11-12)グループ
- ②. 主任Owen BURCH; NBA(Grade 9 & 10)グループ
- ③. 主任Rick SCHATZ; European(Grade 5, 6, 7 & 8)グループ

尚, 各主任コーチは担当グループのゲーム評価も行う。

6. 各コーチの担当コートと学年別グループ

体育館は総合体育館に該当するものにAdams Center (メインコート; 1コート), Wag. (2コート), Tartan (1コート) Recreation Anex (2コート)の6コートがある。これに加え, 別棟にMcGill Hall (2コート)の合計8コートがあり, これをすべて使用する。主な練習コート, 並びにコーチをグループ毎に記載すると以下の通りとなる。

- 6-1. NCAA POOL Aグループ; 主任Jim SAMPSON, 場所; Recreation Anex
Jim EPPERLY, Matt Williams, Brent CUMMINGS, Jim STERGAR, Clark SHAFFER, Dave MAYNARD, Ben BROOKE
- 6-2. NCAA POOL Bグループ; 主任Pryor ORSER, 場所; McGill Hall
Nate COVILL, Tom GROAT, Craig BAUMGARTNER, Kasey Williams, Paul SIR, David DORWARD, Jake STUART,
- 6-3. NBA グループ; 主任Owen BURCH, 場所; Wag. & Tartan
Bill GAUL, Jared BUCKMASTER, Marc MAY, Drew MACGREGOR, Phil ALLEN, J. R. CASILLAS, Hiroyuki YOKOYAMA
- 6-4. European グループ; 主任Rick SCHATZ, 場所; Adams Center
Sam RIDDLE, Dominique DAVIS, Ryan SLIDER, Marc BOUMA,
- 6-5. Substitution 交代要員
Tom MORRISON, Rollie SULIVAN, Bruce ROBERTSON, Jardeth NELSON, Richard BAZOYAN

7. 表彰(Competition Awards; 各グループ

NCAA, NBA, European毎に表彰を行う。)

表彰はキャンプ最終日の7月3日(月)に行われ,

各種目で1位を獲得した選手に対して与えられる。プレイオフに出場する選手の順位等は前日までの競技結果により決定する。プレイオフの順位づけ並びに種目等は次の通りである。

- 3, 2, 1 Free Throw ; NCAAグループは各2 Pool 上位2 チームずつ合計4 チームにて競う。
NBA グループは上位4 チームにて競う。
Europeanグループは上位4 チームにて競う。
- 3, 2, 1 Hot Shot ; NCAAグループは各2 Pool 上位2 チームずつ合計4 チームにて競う。
NBA グループは上位4 チームにて競う。
Europeanグループは上位4 チームにて競う。
- Top Gun ; NCAAグループは各2 Pool 上位2 チームずつ合計4 チームにて競う。
NBA グループは上位4 チームにて競う。
Europeanグループは上位4 チームにて競う。
- 3 on 3 ; NCAAグループは各2 Pool 上位2 チームずつ合計4 チームにて競う。
NBA グループは上位3 チームにて競う。
Europeanグループは上位3 チームにて競う。
- 1 on 1 ; NCAA上位1 グループにて競う。
NBA 上位の2グループにて競う。
European上位の2グループにて競う。
- 表彰の効果は、やる気の高揚のみならず将来の本人の名誉につながる。尚、NCAAはPOOL AグループとPOOL Bグループ合同で表彰が行われる。

8. キャンプ・スケジュール(Camp schedule)

- 6月30日 (金) 1日目のスケジュール(Friday schedule)
- 午前10:00 コーチ・ミーティング(Coaches Meeting)
- 10:00 選手登録(Registration)
- 12:00 各自で昼食(Lunch on own)
- 午後12:30 挨拶(Welcome to Camp・・・Don Holst 総監督)
- 12:50 選手評価(Evaluation)とチーム編成
- 2:10 キャンプにおけるセットオフenseと (図1, 2), ゲームスケジュールの説明
(Camp Offense & Game Schedule・・・Todd SHMAUTZ)
- 2:50 ゲーム I (Game Session I)
- 3:40 スクリーン練習
- 3:50 ゲーム II (Game Session II)
- 4:40 夕食(Dinner at University Center)
- 夕方 6:00 点呼(Roll call)
- 6:10 全般的説明(Giveaways)・・・Todd SHMAUTZ

6:30 各主任コーチによる具体的説明 (グループ毎)

Jim SAMPSON ; NCAA POOL Aグループ, コート ; Recreation Anex

Pryor ORSER ; NCAA POOL Bグループ, コート ; McGill Hall

Owen BURCH ; NBAグループ, コート ; Wag.

Rick SCHATZ ; Europeanグループ, コート ; Adams Center

6:45 競争 {1位を目指して} (Competition Session)

イ. 3 on 3 Cutthroat

区分方法 : 3対3・・・チームをシャツ, スキン, ハーフシャツ, テールに区分し3対3を行う。プレイはコーチが攻撃側のガードポジションにパスすることで始まる。

ロ. 3, 2, 1 Free Throw

フリースローの得点を競う。

得点方法

- ①. ボールがリングおよびボードに触れず得点となった場合 ; 3点
- ②. ボールがボードに触れず, リング1度だけ触れて得点となった場合 ; 2点
- ③. ボールがボードに触れるか, リングに2度以上触れて得点となった場合 ; 1点

ハ. 3, 2, 1 Hot Shot

20秒間, 下記①②③を繰り返しその合計点を競う。①のパスはコーチが行う。

得点方法

- ①. 最初のショット・・・3ポイントエリアから得点となった場合 ; 3点
- ②. 2度目のショット・・・最初のショットをリバウンドし, その場所からショットして得点となった場合 ; 2点
- ③. 3度目のショット・・・2度目のショットをリバウンドし, その場所からのショットして得点となった場合 ; 1点

ニ. 1 on 1 Cutthroat

1対1からのシュート力を競う。攻撃へのパスはコーチが行う。

ホ. Top Gun

得点方法

30秒間で3点ショットを多く得点する。リバウンダー2名は選手が行う。

9:00 解散後宿舎へ(Back to Dorms)

7月1日(土) 2日目のスケジュール(Saturday schedule)

午前

6:45起床(Wake up)

7:00朝食(Breakfast at Adams Center)

8:00 コーチ・ミーティング(Coaches Meeting at Sky Club = Top of Adams Center)

8:30点呼(Roll Call)

8:45報告・伝達

Jim SAMPSON ; NCAA POOL Aグループ,
コート ; Wag.

Pryor ORSER ; NCAA POOL Bグループ,
コート ; McGill Hall

Owen BURCH ; NBAグループ, コート ;
Wag.

Rick SCHATZ ; Europeanグループ, コー
ト ; Adams Center

11:30昼食(Lunch)

午後

1:00点呼(Roll Call)

1:15競争(Competition Session) {1位を目指し
て} . . .各コーチは最終成績を記録する。

1 on 1 Cutthroat

3, 2, 1 Free Throw

3, 2, 1 Hot Shot

Top Gun

2:15ゲーム(Game Session I ~ IV)

4:45夕食(Dinner starts)

夕方

6:00点呼(Roll Call)

6:15ゲーム(Game Session I ~ IV)

10:15解散後宿舎へ(Dismiss to Dorms)

7月2日(日) 3日目のスケジュール(Sunday schedule)

午前

6:45起床(Wake up)

7:00朝食(Breakfast at Adams Center)

8:00 コーチ・ミーティング(Coaches Meeting at Sky Club)

8:30点呼(Roll Call)

8:45報告・伝達

Jim SAMPSON ; NCAA POOL Aグループ,
コート ; Recreation Annex

Pryor ORSER ; NCAA POOL Bグループ,

コート ; McGill Hall

Owen BURCH ; NBAグループ, コート ;
Wag.

Rick SCHATZ ; Europeanグループ, コー
ト ; Tartan

11:30 昼食(Lunch) . . .コーチ・ミーティング。種目
毎, プレイオフに出場する上位選手を選抜す
る。決勝に向けて。 . . .(Coaches Meeting at
University Center)

午後

1:00点呼(Roll Call)

1:15ゲーム(Game Session I ~ IV)

4:45 夕食(Dinner starts) . . .種目毎のオールスター
出場上位選手の選抜, 決勝に向けて。

. . .(Coaches Meeting at University Center)

夕方

6:00点呼(Roll Call)

6:15ゲーム(Game Session I ~ IV)

8:30 All Star Games

NCAA ; Adams Center, NBA ; Wag. ,
European ; Tartan

9:30 解散後宿舎へ(Dismiss to Dorms)

7月3日(月) 4日目のスケジュール(Monday schedule)

午前

6:45起床(Wake up)

7:00朝食(Breakfast at Adams Center)

8:00 コーチ・ミーティング(Coaches Meeting at Sky Club)

8:30点呼(Roll Call)

8:45ゲーム ; 準決勝まで(Game Session Playoffs)

11:45 決勝戦(Competition Finals) ; 場所 Adams
Center(All return to Adams Center)

11:30 昼食(Lunch) . . .Coaches Meeting at University
Center (種目毎の上位選手選抜)

12:00表彰(Awards)

12:30チェックアウト(Check out)

9. コンピティションキャンプ・ゲームの取 り決め(Grizzly Cage Camp Competition Camp Game Rules)

- ①. ゲームに出場する全選手は, 同一時間プレイするものとする。尚, 選手交代は5分毎に行う。
- ②. ゲームは20分のランニング・ハーフとする。
A. タイムアウトの際は, 時間を1分間止める。

- B. ゲーム終了2分間は、正式ゲームと同様の方
式で時間を止める。
- ③. 各コーチには各ハーフで1回のタイムアウトが
許される。
- ④. 各コーチにはゲーム管理、計時、得点係の任務
がある。
- ⑤. 全てのコーチには模範的な行動が期待される。
(コーチはグリズリー・バスケットボール・プ
ログラムそのもの手本であり、およそ、選手
たちはコーチの手本に従う。)
- ⑥. ゾーンで守備してはならない。(マッチ・アップ
・マンツウマンに努めること。)
- ⑦. オールコート・プレス・ディフェンスは次の場
合のみ許される。
- A. 自チームが6点ないしそれ以上負けている
時。
- B. 試合最後の2分間。
- ⑧. 全てのチームは攻撃の時、キャンプ・オフェン
スであるパッシング・ゲームを使うこと。
- ⑨. ゲームが2分間中断した時は自動的にタイムア
ウトとなる。その際、ボールを保持していたチ
ームはゲーム再開までにボールを保管しておく
こと。
- ⑩. もし試合が同点で終了した時は、"sudden
death" overtime ルールの延長が適用される。即
ち、延長の最初に2点をあげたチームが勝ちと
なる。
- ⑪. 各ゲームの終了後、そのゲーム内容を検討する
ために選手をコーチの下に集める。
- ⑫. ファールの執行
- イ. 通常のディフェンス・ファールでは攻撃側に
1点が与えられ、ボールは攻撃側に与えられ
る。
- ロ. シュートモーションであれば、攻撃側に2点
が与えられる。
- ハ. シュートが入っていなければ攻撃側に2点を
与え、シュートが入っておれば、さらに1点
(合計3点)が与えられる。
- ニ. シューティング・ファールの後のボールは、
全て守備側のものとなる。
- ホ. オフェンシブ・ファールではポイントは与え
られず、守備側のボールとなる。
- ⑬. ゲーム最後2分間の全てのシューティング・フ
ァールにはフリースローが与えられるが、それ
はone-on-oneのフリースローである。

- ⑭. その他、良いゲームに近づく指導法として、
- イ. 最初のプレイに集中せよ(First move concen-
tration)・・・First shot, First rebound, First
screen, Give& Go, Concentrationなど。
- ロ. 最初のショットに集中せよFirst shot concen-
tration ……出来るだけイージーショットをね
らえ・・・If possible "Easy shot try"。等のアド
バイスが与えられる。

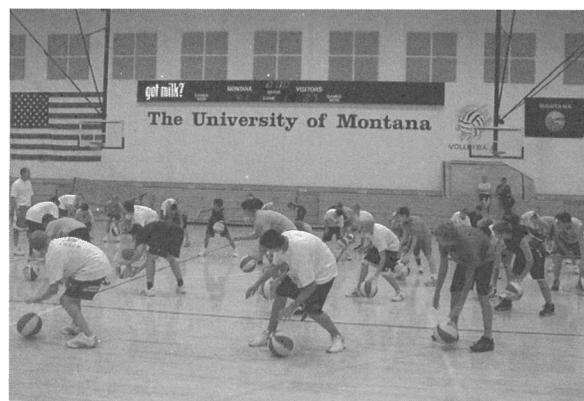
11. コーチの指導理念

各コーチは非常に指導熱心である。だからといって、
熱心さのあまり怒鳴りつけたり厳しい発言で叱ること
はない。コンピティション・キャンプは、朝6時45分
起床から始まり、朝、昼の練習およびゲームメニュー
から夜10時15分まで長時間におよび、内容も極めて綿
密である。これらは選手にとって極めて過酷である。
しかし選手の意識は高く、愚痴をこぼす者はほとんど
いない。また、コーチは選手の立派なプレイをよく褒
める。時として、対戦相手の選手さえ高めて手本とす
る。

大学選手によるデモンストレーションや、チームを
盛り立てたり、頑張っている選手に対しては皆の前で
チョコレートや菓子を与えるなど、士気高揚やリフレ
ッシュを図っている。しかも、それらタイミングは極
めてよい。

12. おわりに

アメリカ・モンタナ州と日本ではバスケットボール
に対する指導、組織、規模、社会的援助、考え方等が
かなり違っているようである。例えば、選手やコーチ
を呼ぶときは必ず名前を使う。このため、名前は全て
覚えていなければいけない。また、日本でも「褒めて
育てよ」という言葉があるように、モンタナのコーチ
は選手をよく褒める。指導は綿密で、特に「最初のプ
レイに集中せよ(First move, First shot, First rebound,



First screen, First Give & Go, Concentration)や「出来るだけイージー・ショットをねらえ。」(If possible "Easy shot try")等のアドバイスがよく与えられる。

当然、モンタナの選手は、自分のプレイがアメリカ国内で通用すれば、大学チームやプロバスケットボールを目指そうと考えている者が多い。

尚綱短期大学

尚綱短期大学幼児教育科 柿原 一 貴

尚綱短期大学の沿革

尚綱学園は百十有余年前に女学校として設立され、今では、熊本で唯一の女子総合教育の殿堂となった。本学は昭和27年に設立され、当初は家政科のみであったが、42年に家政専攻と食物栄養専攻に分離し、43年には幼児教育科を設置した。さらに、平成8年には専攻科・食物栄養専攻を新設し、4年間の栄養士養成課程として一貫した教育を行っている。本学は、伝統を大切にしながら時代と社会が求めている最新の専門教育を施し、社会で活躍できる人材を養成している。本年は平成14年度に短大開学50周年目となり、10月に記念式典が挙行される。建学の精神は、「詩に曰く、錦を衣て綱を尚ふ。其の文の著はるゝを悪んでなり。故に君子の道は闇然として日に章かに、小人の道は的然として日に亡ぶ。君子の道は淡にして厭わず簡にして文、温にして理なり」。であり、『尚綱』の二文字は中国の古典、『中庸』の中に引用してある「詩経」の「錦を衣て綱を尚ふ」という章を出典としている。本短期大学は九品寺と楡木に設置されており。九品寺キャンパスは家政科(家政専攻・食物栄養専攻)、尚綱短期大学家政科食物栄養専攻専攻科、尚綱高等学校、尚綱中学校、尚綱学園本部が併設されている。楡木キャンパスには、幼児教育科があり尚綱大学、尚綱短期大学附属幼稚園、尚綱短期大学子育て支援センターが併設されている。附属幼稚園のみが共学で他は女子のみが学んでいる。又、本学園は明治22年に昭憲皇太后から御歌を下賜され、また、昭和61年には昭和天皇か



久品寺校地

ら御製を下賜された。本学伝統として、入学・卒業式時に御製・御歌にメロディを付け式歌として斉唱している。

各科の紹介

<家政専攻>

「家庭」は共生社会の最小単位で、そこには、夫婦、親子という人間関係があり、それを支える衣・食・住があります。さらに、就職、ボランティア活動を通して、社会に広くつながっています。豊かに、快適に暮らすために「生活を科学」する事を目的としている。

<食物栄養専攻>

「食」は、人間の生活と健康の基礎であります。食物栄養専攻では、食物と栄養について正しく指導できる「食」のスペシャリスト、栄養士を育成する事を目的としている。

<食物栄養専攻専攻科>

短期大学栄養士養成課程卒業生(栄養士免許取得者)に対する二年制の進学コース。(大学評価・学位授与機構認定、平成8年度開設)大学評価・学位授与機構の審査を受けて、学士(栄養学)の学位を取得することができ、又、管理栄養士国家試験受験資格を取得することができる。

<幼児教育科>

のびのびと個性豊かに成長するこどもたちを見守り育む。それが幼児教育者の役割であり豊かな専門的知識と技能を備えた教育者の育成をめざす。そのため理論から実技まで、幅広い内容を学ぶ事を目的としている。また、2年間で8週間の実習を行う。

必修科目としての保健体育

本学においては体育実技・保健体育(講義)を開設しそれぞれ1単位で卒業必修単位としている。体育教官は全4名(1名は女性で幼児体育担当)体育実技においては家政科1名・幼児教育科に2名が授業を行っている。保健体育講義は幼児教育科の専任教官が両校地に講義を行っている。家政科は、体育施設を高校、中学と共用しており開設時限・種目供に苦慮している。幼児教育科は大学との共用であり体育館・プール

とも余裕を持って使用している。

授業内容

体育実技においては、スポーツは楽しみを求めて自ら進んで行うという視点に立ち、楽しさの中からマナーや安全、運動の大切さを理解し、健康の保持増進に勤め、生涯スポーツ取り組みへの基礎を身につける事を目標としている。

両校地とも年度当初に体力診断テストを行っており、開設種目については「卓球」、「ソフトバレーボール」、「水泳」、「バスケットボール」等を行っている。授業形態はクラス単位（30～50名）で同一種目を行っている。（種目選択制ではない）

保健体育においては、長寿国となった我が国では健康にして意義ある人生を送るため、学生は現在心身発育の成熟期にあり、いま生涯の健康を確立し、その維持に努めるための科学的知識を得させ、自ら進んで実



榎木校地

践する態度を育成する事を目的とし、各科1学年時に学年全員に対し50分の講義を行っている。

両校地とも体育実技は楽しく積極的に授業に取り組んでいるが、一斉指導であるため学生の種目選択の余地が無いことが今後の課題である。

「体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議」春季研修会の概要

- 1) 開催期日：平成14年3月28日(木)～29日(金)
- 2) 会 場：国民宿舎青雲荘(長崎県島原市)
- 3) 研修内容：

(1) 特別講演

『運動負荷時の栄養素代謝と栄養異常』

奥 恒行(長崎県立シーボルト大学)

(2) 特別講義

『変わりゆく大学体育』

上田 征一

(九州体育連合 顧問：九州国際大学名誉教授)

(3) シンポジウム

「魅力ある授業づくり」

1) 大学体育のパラダイム転換に対する一考察

—体育授業研究の成果から得られる示唆—

鈴木 理(宮崎大学教育文化学部)

2) 健康科学実習における「ウォーキング・ジョギング」実習

上田 毅(福岡県立大学)

3) 授業を作る～熊本学園大学健康科学科目 レクリエーションスポーツコース(井上弘人担当)

井上 弘人(熊本学園大学)

(4) 一般研究発表

1) 産業医科大学の授業の取り組み

古田 瑞穂(産業医科大学)

2) ディスカッション授業の展開と評価

橋本 公雄(九州大学)

ライフステージムーブメントの実践

松永 恵子(県立長崎シーボルト大学)

4) 生活運動の体育化について

飯干 明(鹿児島大学)



九州地区大学体育連合春期研修会に参加して

長崎女子短期大学 講師 下 釜 綾 子

長崎県では、毎年、県内大学教官親睦会を行い、各大学の情報交換と親睦を深めております。私の短大は本体育連合に加盟をしていないのですが、親睦会の席において、研修会の長崎県開催に全員協力することとなり参加させていただきました。

雲仙はまだ肌寒く、温泉付きの会場は若くない私にとってありがたい会場でした。

研修会は産業医科大学の古田先生の研究発表を皮切りにスタートいたしました。「生きていく私を考える」ということばがあたりまえのようでの的を得、ストレートに学生の意識に入り込んでいくように感じました。また、少人数制クラスの特性を生かしひとり一人に面接をするなど、きめ細やかな指導の実践にも感心いたしました。

九州大学の橋本先生のご発表は、多人数一方向の授業がもたらす学習意欲の低下を解決する為の学生参加型の取り組みについてでした。ディスカッション授業については大変興味あるところです。ディスカッション授業の仕掛けとして設定された討議時間、回数、人数、テーマなどかなりの準備時間を要されたと思います。昨年も発表されたと伺い、帰りましてから頂いた昨年の資料を興味深く読ませていただきました。受身的だとか消極的だとか学生の受講態度の批判より、教員が魅力ある授業づくりの研究を創造的な視点で行わなければならないと感じさせられました。

続いては、宮崎大学の鈴木先生、福岡県立大学の上田先生、熊本学園大学の井上先生をパネリストにお迎えし、シンポジウムが行われました。先生方が熱意をもって授業に取り組んでいらっしゃる様子が伝わって参りました。

鈴木先生の大学体育の充実と魅力アップへの提言は、「正しいやり方を教え込む授業」「学生の自主性に任せた放任授業」からの脱却と「意味を考える授業」への転換でした。生涯にわたってスポーツとともに生きる力を養うことを高等教育機関での命題とし、気付くこと、理解すること、組み立てることなどの活動を提供することの意義を示唆されました。

福岡県立大学の上田先生の実践報告では「健康科学実習ノート」に興味深くみせていただきました。13年度のノートを持って来ていないとのことでしたので、

研修会終了後、送って頂くようお願いをしたところ快く承諾して下さいました。この中からいくつか参考にさせて頂いて、早速新年度からの授業に活用させて頂いております。ひとつは主観的運動強度の測定です。我短大は、門をくぐると急な上り坂になっており、遅刻しそう時は駆け上らなければなりません。この坂で「だらだら・普通・少し早め・大急ぎ」の4段階を測定しました。このような授業形態が初めてでしたので私も内心不安でしたが、学生は、普段の自分のペースを確認したり、友達と比較しあったり賑やかに測定を行い大好評でした。

次に熊本学園大学の井上先生の綿密な記録による実践報告が発表されました。どの先生方もご自分の授業に細やかな配慮とチャレンジをされており、あらゆる面において刺激になりました。

初日最後のプログラムは長崎県立シーボルト大学の奥先生の講演でした。同県にいても先生のお話を伺う機会を持たなかったものですから、大変よい機会に恵まれました。科学的根拠に基づく合理的なトレーニングの実践に不可欠なスポーツ栄養学についての講演を新鮮な気持ちで聞くことができました。

翌日は、九州国際大学の上田先生の特別講義からスタートいたしました。先生の接してこられた大学体育の歴史を伺いながら、今後の大学体育づくりへのエネルギーを頂いたような気持ちになりました。

続いて、長崎県立シーボルト大学の松永先生によるご発表でした。先生は様々な教室活動、講演活動を通して研究の成果を地域に還元していらっしゃる。今回のご発表にありました生活習慣病予防教室で、体力年齢の大幅な向上を得られた方の笑顔を想像してみたとき、先生の日頃の研究活動に畏敬の念を抱きました。

最後は、鹿児島大学の飯干先生のご発表でした。生活の中で運動量を確保できるという視点を、具体的に裏付けることが実践力への影響力となりうるのだと改めて感じました。

今回、役割を頂いたお陰で、大変貴重な研修会に参加させて頂くことができましたことを心より感謝申し上げます。雲仙の湯けむりより熱い研究心に触れ、心暖かく島原半島を後にしました。

春期研修会を終えて

県立長崎シーボルト大学 松永 恵子

平成13年度春期研修会を無事終了する事ができました。しかし、不慣れのため皆様には大変ご迷惑をおかけしたことを、まずお詫び申し上げます。

私は昭和59年に桜島で行なわれた全国大学体育連合の研修会に参加しました。大学保健体育が選択教科になる問題を、全国から集まった先生方が長時間にわたって熱心に討議され、会場が熱気に包まれたことを忘れることができません。

長崎県立女子短期大学は平成11年に閉学し、県立長崎シーボルト大学に移行・昇格しましたが、そのおりシーボルト大学の設立準備委員会では、やはり保健体育の授業を全学共通の選択科目とする意見が大半を占めていました。しかし学生の体力低下と生活習慣病の若年化を理由に保健体育の必要性を説き、ようやく必修1単位を確保する事ができました。この貴重な1単位を学生にとって有益な授業となるよう教材研究に努めています。

さて、平成12年度に長崎県の理事として、初めて理事会に出席したところ、長崎県が平成13年度春期研修会の当番県であることを知り驚きました。その席で研修テーマが「教育と研究の融合化」に決定し、やりがいのあるテーマだと感じました。

早速、特別講演は県立長崎シーボルト大学看護栄養学部栄養健康学科長の奥恒行先生に「運動負荷時の栄養素代謝と栄養異状」という演題でお願いいたしました。先生は食物繊維の研究では日本を代表される方で、先生の論文を拝読して韓国やエジプトなどからも研修生が訪れています。

昨今、サプリメントなどの研究が進んでいる中で、



スポーツ栄養学に関してはまだ未知な点が多く、現在の課題といわれる領域です。そこで、奥先生には体育・スポーツ学と栄養学の関連について講演をお願いすることにいたしました。

特別講義及びシンポジウムについては、九州地区大学体育連合理事長である米沢久先生がお世話くださいました。特別講義は「変わりゆく大学体育」という演題で上田征一先生（九州国際大学名誉教授）が、シンポジウムは「魅力ある授業づくり」というテーマで、井上弘人先生（熊本学園大学）、上田毅先生（福岡県立大学）及び鈴木理先生（宮崎大学）に提言いただき、司会の菅原正志先生（長崎大学）によって活発に進められました。皆様方に心より感謝申し上げます。

この研修会に大学院生はじめ若い先生方にも参加していただきたいと願い、宿泊参加費等が負担にならないように国民宿舎を選びました。そのために研修会場が狭くご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

また、この小地獄温泉が雲仙で唯一の濁り湯であることも候補の一つでした。日夜研鑽を積んでおられる先生方が、緑の山々を眺めながら露天風呂に浸かり、心身のリフレッシュを図るのに良い機会だと思い企画しました。雲仙の温泉は如何でしたでしょうか。

それにしても九州体育・スポーツ学会同様に女性指導者の参加が少なかったのは残念でした。今や大学生の大半は女子学生であり、男女共同参画社会であればこそ、女性の生き方を保健体育を通して考える、研修の機会でもあると考えますが・・・

この研修会に老若男女の指導者が集い、夜ふけるまで時間を忘れて、保健体育の授業への思いを語り合う場として大切にしたいものです。「桜島大会のエネルギーよ。もう一度」という思いがあります。

最後になりましたが、この一年間いろいろご協力いただきました長崎県の先生方に心から感謝申し上げます。